

-----これから生まれてくる赤ちゃんのために-----

妊娠かなと思ったら…お酒はやめましょう!!

妊娠・授乳時の飲酒の影響を知っておきましょう。

胎児性アルコール症候群と飲酒量の関係は明らかになつていませんが、「妊婦に安全な飲酒量はない！」です。

妊娠がわかつたらその時点ですぐに禁酒しましょう。

●妊娠中の飲酒、お腹の赤ちゃんへの影響は？

妊娠中にお酒を飲むと、アルコールが胎盤を通じて赤ちゃんに運ばれ、早産や分娩異常を引き起こすことがあります。

また、赤ちゃんは「**胎児性アルコール症候群**」という障害がでる場合があります。



胎児性アルコール症候群について

胎児性アルコール症候群とは、母親の飲酒が原因で引き起こされる胎児の障害です。

具体的な障害としては…

●顔面の異常

(鼻が低い、人中(鼻の下の溝)がない、斜視、頭が小さい、顎が小さいなど)

●体の発育障害

●知能障害・学習障害・行動障害など

●心臓・腎臓・性器などの奇形などがみられます。

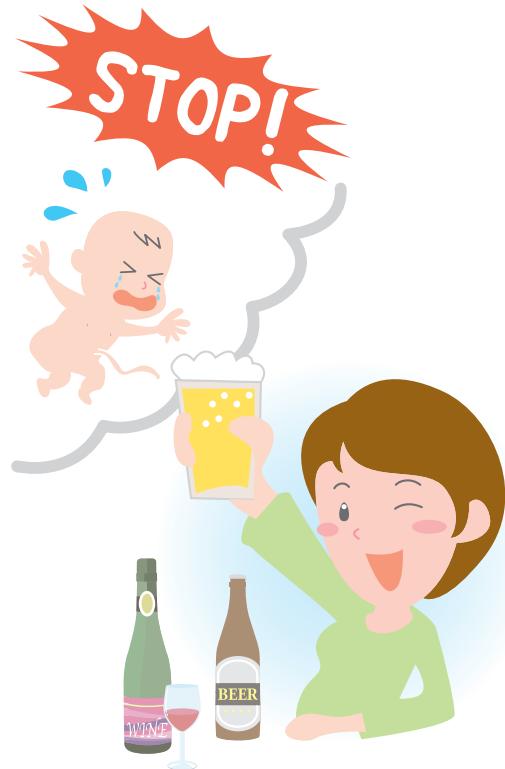
●授乳中の飲酒、赤ちゃんへの影響は?

授乳中の飲酒は、母乳を通じて赤ちゃんへ運ばれる危険があります。

例えば、授乳中のお母さんがお酒を飲むと・・・

- 母乳の出が悪くなる。
- 赤ちゃんが寝ないでぐずるようになる。
- 乳児の発達、特に運動機能の発達が遅れるなどがみられます。

授乳中も飲酒は避けましょう。



問合せ 保健年金課 健康推進係 ☎ 92-5763 保健師までご相談ください。